

# 令和3年度 [丹後織物業の景況・動向調査] 報告書

[令和3年11月 公益財団法人 京都産業21 北部支援センター]

(公財)京都産業21 北部支援センターでは、丹後地域の織物業の景況・動向を把握し、関係機関等の支援施策等の参考としていただくため、アンケート調査と聞き取り調査を実施しました。

■調査対象	丹後地域内の織物業事業者 150事業者
■調査時期	令和3年10月～11月 (前回調査時期：令和3年2月～3月)
■調査方法	アンケート調査(回答者82事業者 回答率54.6%) 聞き取り調査(電話・対面)21事業者
■回答数	所在地別 京丹後市36事業者(43.9%) 与謝野町46事業者(56.1%)

## ■景況全般について

- 令和3年の丹後ちりめんの生産量(10月末時点累計)は和装需要の減少に加え、前年から続く新型コロナウイルス感染症の影響のため、12.5万反、前年同月比95.7%となった。
- 景況感のDI値は-66で、前回(令和3年2～3月調査)の-91に比べ25ポイント改善したものの、前々回(令和元年12月～令和2年2月)のDI値-46に比べ20ポイント低く、依然として厳しい状況が続いている。
- また、今後の見通しのDI値は-45で、前回の-91に比べ46ポイント改善となったものの、「やや悪い」「悪い」の回答が64%(前回93%、前々回76%)と先行きの不安感が続いている。
- 採算状況について、赤字とする企業が49%で前回の61%に比べ、12ポイント改善したものの、前々回の26%に比べ23ポイント低く、厳しい状況は続いている。
- 新型コロナウイルスの緊急事態宣言は解除されたが、コロナ禍の外出自粛が長引き、購買層の多くを占める高齢者等の購買意欲が回復せず、消費が少ない状況が続いているものの、レンタル用途の生産やインターネット等での販売が順調な和装小物は比較的安定した生産となっている。
- こうした中、最近の生糸高や原油高等のコスト増が経営を圧迫するとともに、織手や撚糸等関連工程事業者において高齢化等に伴う人材不足が大きな課題となっており、一部では関連工程を内製化する動きも出ている。
- 一方、機業独自のブランド品を開発し、会社のファンを増やし取引と経営の安定に繋げている機業や新たな分野進出に向けた商品開発に取り組んでいる機業、あるいは、新型コロナウイルスを機にネット販売や情報発信を強化しようとする機業の動きも見受けられる。

## ■今後必要な支援制度について

「京都府伝統産業生産基盤整備事業補助金」が60%と最も多く、続いて「雇用調整助成金」が39%、「融資・貸付制度」が17%という順となった。

## ■今後必要な取組みについて

「新商品の開発」、「直接販売(インターネット含む)」、「取引先の変更・新規販路の開拓」、「最終製品の生産」、「異業種・他産地との連携」など、前回同様に商品開発・販路開拓に関する回答が多数となった。

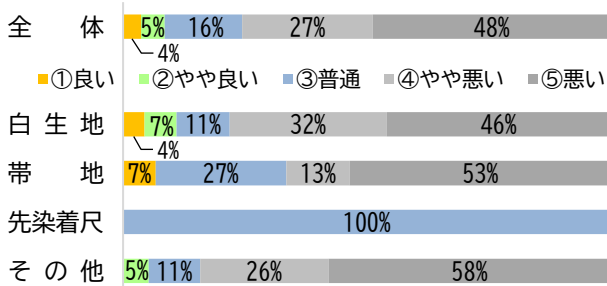
## I 回答事業者

■代表者の年齢	年 齢	39歳以下	40～59歳	60歳以上			
	事業者数	0	39	43			
■内機・出機の有無	内機・出機の有無	内機のみ	内機・出機両方	出機のみ有り			
	事業者数	35	25	18			
■内機の織機台数	内機の台数	1～4台	5～9台	10～14台	15～19台	20台以上	
	事業者数	47	18	7	3	7	
■内機の従事者数	内機の従事者数	1～4人	5～9人	10～14人	15～19人	20人～	
	事業者数	63	13	3	2	1	
■主な生産品目の割合 (50%以上の生産品目)	主な生産品目	白生地	帯 地	先染着尺	服地	その他	
	事業者数	46	15	2	5	14	
■主な取引先の割合 (最大の取引先)	主な取引先	問屋	メーカー	百貨店	小売店	ネット販売	その他
	事業者数	46	28	1	1	1	5

## Ⅱ 景況全般について

※D I 値 = 「良い」「やや良い」と回答した企業の割合から「やや悪い」「悪い」と回答した企業の割合を差し引いた値

### 1 現在の景況感



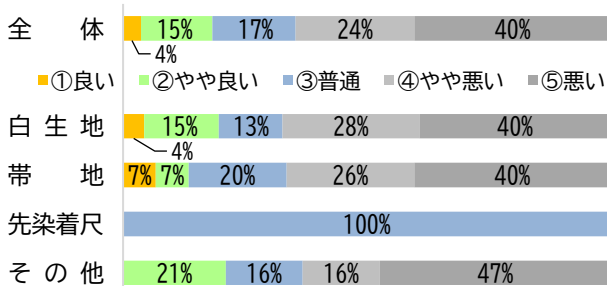
●全体：

今回のD I 値は-66で前回の-91に比べ25ポイント改善となった。

●生産品目別：

D I 値は、白生地-67（前回は30ポイント改善）、帯地-59（前回は11ポイント改善）、先染着尺±0、その他（和装小物、服地、インテリア地、ネクタイ地等）は-79（前回は11ポイント改善）となった。

### 2 今後の見通し



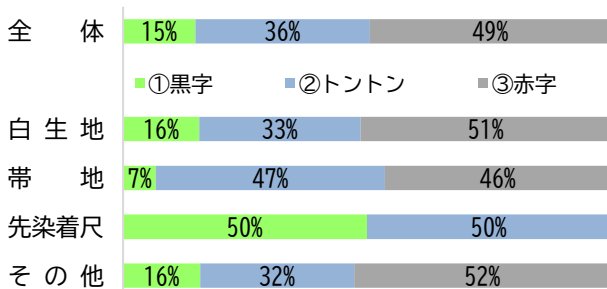
●全体：

今後の見通しのD I 値は-45となり、前回の-91に比べ、46ポイント改善の見通しとなっている。

●生産品目別：

D I 値は、白生地-49、帯地-52、先染着尺±0、その他-42の見通しとなった。

### 3 現在の採算状況



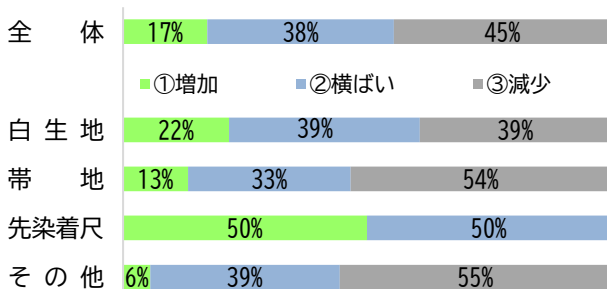
●全体：

「黒字」が15%（前回は9ポイント改善）、「赤字」は49%（前回は12ポイント改善）となり、赤字が黒字を上回り、引き続き厳しい状況となった。

●生産品目別：

「黒字」の比率は、白生地16%（前回は8ポイント増加）、その他16%（前回は6ポイント増加）。「赤字」は、白生地51%（前回は16ポイント改善）、帯地46%（前回は16ポイント改善）、その他52%（前回は1ポイント改善）となった。

### 4 現在の生産・受注量



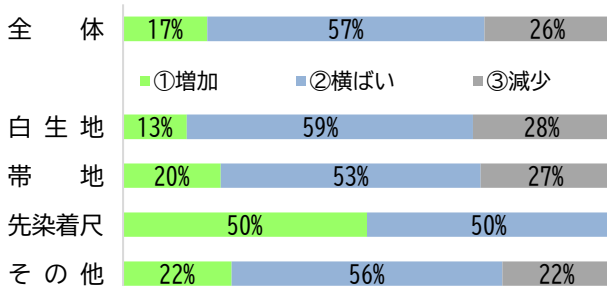
●全体：

「減少」が45%で前回の85%に比べ40ポイント改善となった。

●生産品目別：

白生地39%（前回は58ポイント改善）、帯地54%（前回は11ポイント改善）、その他55%（前回は25ポイント改善）となった。

### 5 今後の生産受注見通し



●全体：

「増加」が17%で前回は11ポイントの増加、「減少」が26%で前回は31ポイントの改善となった。

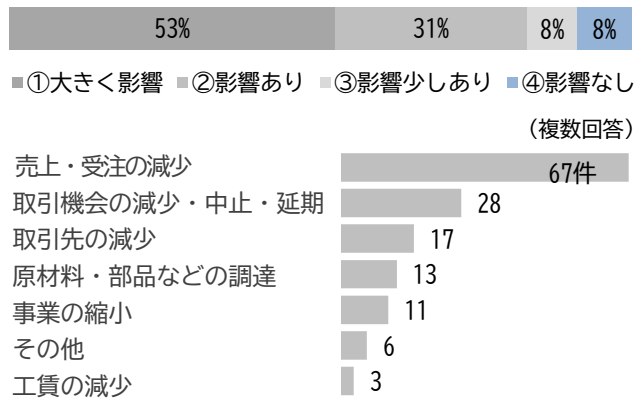
●生産品目別：

白生地は13%と（前回は8ポイント増加）、帯地20%（前回は20ポイント増加）、先染着尺50%（前回は30ポイント増加）となった。

### Ⅲ 新型コロナウイルス感染症の影響について

#### 1 新型コロナウイルス感染症の影響

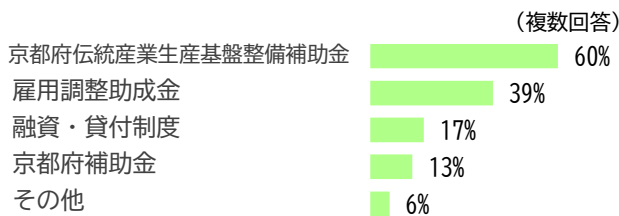
「影響ある」が92%



- 全体：  
「大きく影響」「影響あり」「少し影響あり」を合わせ92%となった。
- 影響の内容：  
「売上・受注の減少」が67件、「取引機会の減少・中止・延期」が28件、「取引先の減少」が17件、「原材料・部品などの調達」が13件という順となった。

#### 2 今後必要な支援制度

多くの事業者が支援を希望

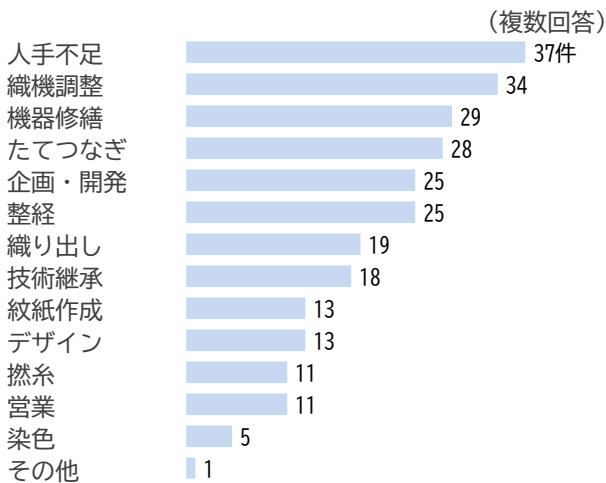


- 全体：  
「京都府伝統産業生産基盤整備事業補助金」が60%、「雇用調整助成金」が39%、「融資・貸付制度」が17%となり、今後も引き続き支援制度を求める回答結果となった。

### Ⅳ 事業所の状況について

#### 2 生産に関する課題について

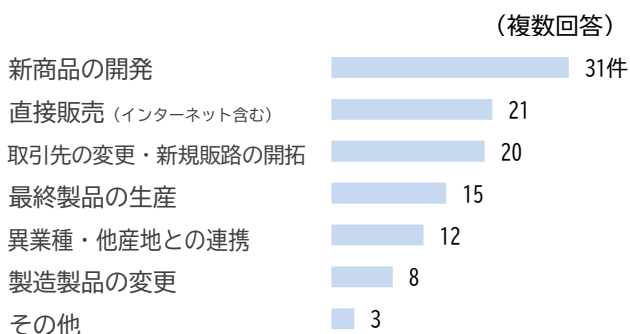
生産に関わる課題は「人手不足」「織機調整」



- 全体：  
「人手不足」が37件、「織機調整」が34件、「機器修繕」が29件、「たてつなぎ」が28件、「企画・開発」が25件、「整経」が25件、「織り出し」が19件という順となった。

#### 4 今後必要な取組み（取り組んでみたいこと）

必要な取組は「新商品の開発」「直接販売」



- 全体：  
「新商品の開発」が31件、「直接販売（インターネット含む）」が21件、「取引先の変更・新規販路の開拓」が20件、「最終製品の生産」が15件、「異業種・他産地との連携」が12件という回答数となった。

